

# 公共牧場機能強化等体制整備事業

【令和5年度予算概算要求額 80（80）百万円】

## <対策のポイント>

公共牧場・試験場等が有する**広大な草地や高い技術力のフル活用**により、省力的かつ低コストに**国産飼料を生産・供給する取組**及び**優良な和牛を増産する取組**を支援します。

## <事業目標> [平成30年度→令和12年度まで]

- 飼料自給率の向上（25%→34%）
- 粗飼料自給率の向上（76%→100%）
- 繁殖雌牛の飼養頭数の増加（61万頭→80万頭）

## <事業の内容>

### 1. 機能強化等に係る計画策定

地方公共団体及び生産者集団等による強化計画の策定のために行う**検討会開催、現地調査等の取組**を支援します。

### 2. 公共牧場機能強化等体制整備

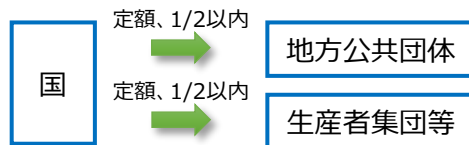
地方公共団体及び生産者集団等が強化計画に基づき行う**国産飼料を生産・供給するための草地改良、施設・機械整備、安定供給の確保**及び**優良な和牛を増産するための繁殖雌牛等の導入、施設・機械整備等**を支援します。

※ 国産飼料を生産・供給する取組については、飼料の増産要件を適用  
優良な和牛を増産する取組については、和子牛等の増産要件を適用

公共牧場は全国に698施設。

地方公共団体所有が3分の2、JA等所有が3分の1。

## <事業の流れ>



## <事業イメージ>

### 公共牧場・試験場等が有する広大な草地や高い技術力のフル活用

#### 国産飼料を生産・供給する取組を支援 (公共牧場の「飼料生産基地」機能の強化)

##### 飼料生産

草地改良、飼料生産に係る  
施設・機械整備等



外部飼料生産組織等との連携や  
飼料の安定供給の確保のための取組

飼料供給先との供給計画に係る打合せ等



#### 優良な和牛を増産する取組を支援

##### 増頭

繁殖雌牛等の導入  
(自己保有牛)



##### 増頭に必要な 施設等の整備

畜舎・機械整備等



##### 放牧地の 整備

草地改良、飼料生産等  
に係る施設・機械整備等



# ○ 草地関連基盤整備<公共>

【令和5年度予算概算要求額 393,280 (332,162) 百万円の内数】

## <対策のポイント>

飼料生産基盤に立脚した力強い畜産経営の実現を図るため、畜産経営規模の拡大や畜産主産地の形成に資する**飼料生産の基盤整備等を推進**します。

## <事業目標>

- 飼料自給率の向上 (25% [平成30年度] →34% [令和12年度まで])
- 飼料作付面積の拡大 (89万ha [平成30年度] →117万ha [令和12年度まで])

## <事業の内容>

## <事業イメージ>

### 1. 大型機械化体系に対応した草地整備

大型機械による効率的な飼料生産を推進するため、**草地整備、排水不良の改善等の整備**を推進します。

〔【主な工種】 草地の区画整理、暗渠排水 等 〕

### 2. 泥炭地帯における草地の排水不良の改善

効率的な飼料生産基盤を形成するため、土壌の特殊性に起因する地盤の沈下による**草地の湛水被害等に対処する整備**を実施します。

〔【主な工種】 整地、暗渠排水、排水施設 等 〕

### 飼料生産の基盤整備

#### <整備前>



排水性や起伏条件の悪い草地

#### 草地整備



#### <整備後>

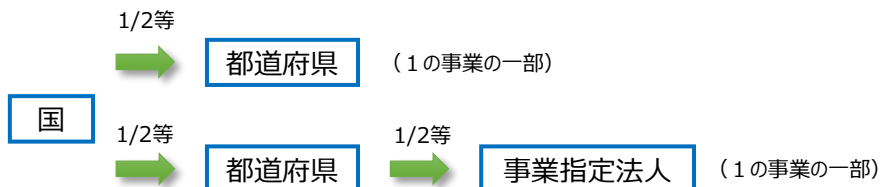


良好な飼料生産基盤の実現

### 基盤整備による効果



## <事業の流れ>



※ 2の事業は、直轄で実施 (国費率3/4)

【お問い合わせ先】 (1の事業) 畜産局飼料課 (03-6744-2399)

## II 飼料の安定供給

### 飼料穀物備蓄・流通合理化事業

【令和5年度予算概算要求額 1,903 (1,750) 百万円】

#### <対策のポイント>

配合飼料製造事業者等が、不測の事態に備えて策定している事業継続計画（BCP）に基づき実施する**飼料穀物の備蓄、緊急運搬、関係者の連携体制の強化**の取組、**飼料流通の効率化の実証等**の取組を支援することにより、**配合飼料の安定供給を確保し、畜産経営の安定を図ります。**

#### <事業目標>

畜産農家への安定的な配合飼料の供給

#### <事業の内容>

#### <事業イメージ>

##### 1. 飼料穀物備蓄対策

- ① 民間が事業継続計画（BCP）に基づいて実施する**飼料穀物の備蓄をはじめとする配合飼料の安定供給**のための取組に対し、その費用の一部を支援します。
- ② 非常時における円滑な対応を図るため、関係者の**連携体制の強化に向けた協議会の開催**や、**原料の利用・配合飼料の生産状況の調査等**の取組を支援します。

（これまでの主な対応事例）

- ・平成17年9月～ ハリケーン「カトリーナ」による飼料穀物のひっ迫懸念に対応。
- ・平成23年3月～ 東日本大震災により、東北地方以外の工場での増産による代替供給に必要な飼料穀物のひっ迫に対応。
- ・令和2年3月～ 新型コロナウイルス感染症の影響で、配合飼料工場の出勤人員が減少した際に、他工場から配合飼料の緊急運搬を実施。

##### 2. 飼料流通合理化対策

- ① 民間団体等が行う**飼料輸送に関する課題の理解醸成や課題解決に向けた取組を検討する**取組を支援します。
- ② **飼料流通の効率化・標準化に資する実証**の取組を支援します。
- ③ **新たな国産粗飼料の広域流通体制を構築する実証**の取組を支援します。
- ④ **国産粗飼料の流通の定着化に資する取組**を支援します。

#### <事業の流れ>

5/17以内、1/3以内、1/2以内、定額

国



民間団体等

- **飼料穀物の備蓄**（補助率5/17以内、1/3以内） <リスク内容の例>  
配合飼料メーカー等が実施する飼料穀物の備蓄の取組に対し、その費用の一部を支援。



- **配合飼料の緊急運搬**（1/2以内、定額）  
国内の災害等により、配合飼料の供給が困難となった地域に対する配合飼料の緊急運搬を図るため、必要な費用の一部を支援。



- **関係者間の連携のための環境整備**（定額）  
非常時における円滑な対応を図るため、平時における関係者の連携体制の強化の取組（協議会の開催、配合飼料の生産状況の調査等）を支援。

- **持続可能な飼料輸送の実現に向けた検討**（定額）  
民間団体等が行う飼料輸送に関する検討会議に必要な経費を支援。

- **飼料輸送の効率化・標準化の実証**（定額、1/2以内）  
超音波センサー等を用いた飼料在庫・配送管理や飼料タンク蓋の遠隔開閉装置等の設置による飼料投入の効率化、鉄道等を用いた共同輸送等の取組を支援。

- **国産粗飼料の効率的な広域流通の実証**（定額、1/2以内）  
国産粗飼料を県域を越えて流通させるために必要な簡易な保管施設の設置や飼料品質の調査分析等実証に係る経費を支援。

- **国産粗飼料流通の定着化を推進**（定額、1/2以内）  
国産粗飼料流通の定着化、製品の品質向上と安定、検討会の開催等を支援。

# 飼料穀物備蓄対策

【令和5年度予算概算要求額 1,903 (1,750) 百万円の内数】

## <対策のポイント>

配合飼料製造事業者等が、不測の事態に備えて策定している事業継続計画（BCP）に基づき実施する、飼料穀物の備蓄、緊急運搬、関係者の連携体制の強化等の取組を支援することにより、配合飼料の安定供給を確保し、畜産経営の安定を図ります。

## <事業目標>

不測の事態にあっても、畜産農家への安定的な配合飼料の供給

## <事業の内容>

## <事業イメージ>

### 1. 飼料穀物備蓄支援事業

配合飼料製造業者等がBCPに基づき行う飼料穀物の保管を支援します。

### 2. 配合飼料緊急運搬事業

緊急時に配合飼料製造業者等がBCPに基づき実施する配合飼料の緊急運搬の取組を支援します。

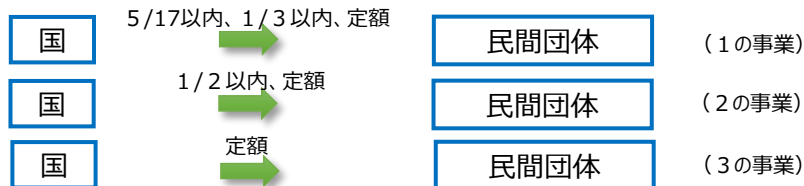
### 3. 配合飼料安定供給連携支援事業

配合飼料製造業者等の関係者間の連携体制の強化を図るための協議会開催等を支援します。

（これまでの主な対応事例）

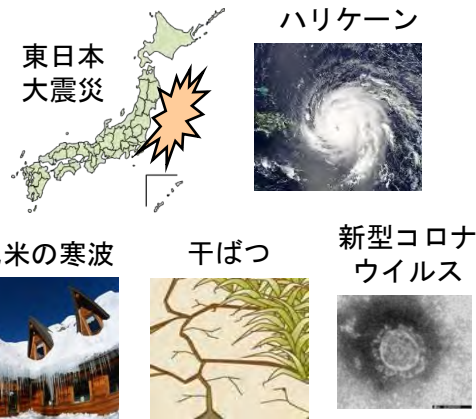
- 平成17年9月～ ハリケーン「カトリナ」による飼料穀物のひっ迫懸念に対応。
- 平成23年3月～ 東日本大震災により、東北地方以外の工場での増産による代替供給に必要な飼料穀物のひっ迫に対応。
- 平成24年10月～ 南米等の脆弱なインフラ等に起因する輸送遅延が生じた事態に対応。
- 平成29年2月～ 北米の寒波の影響により、飼料用とうもろこしの輸送遅延が生じた事態に対応。
- 令和元年10月～ 台風19号による配合飼料工場浸水に伴う工場停止に対応し、配合飼料の緊急運搬を実施。
- 令和2年3月～ 新型コロナウイルス感染症の影響で、配合飼料工場の出勤人員が減少した際に、他工場から配合飼料の緊急運搬を実施。

## <事業の流れ>



### 1 飼料穀物の備蓄（補助率5/17以内、1/3以内） <リスク内容の例>

配合飼料メーカー等が実施する飼料穀物の備蓄の取組に対し、その費用の一部を支援。

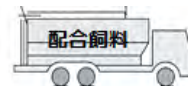


#### BCPに基づき、リスクの内容に応じて活用

※備蓄する飼料穀物は、とうもろこし、ごうりゃん、大麦、小麦、大豆油かす、ふすまの中から民間が選択。

### 2 配合飼料の緊急運搬（1/2以内、定額）

国内の災害等により、配合飼料の供給が困難となった地域に対する配合飼料の緊急運搬を図るため、必要な費用の一部を支援。



### 3 関係者間の連携のための環境整備（定額）

非常時における円滑な対応を図るため、平時における関係者の連携体制の強化の取組（協議会の開催、配合飼料の生産状況の調査等）を支援。



# 飼料流通合理化対策

【令和5年度予算概算要求額 1,903 (1,750) 百万円の内数】

## <対策のポイント>

飼料輸送に携わるトラックドライバーの人材確保や環境負荷軽減のために、**飼料輸送の効率化・標準化に資する実証や県域を越えた国産粗飼料の広域流通体制構築の実証**等の取組に対し支援を行い、**安定的な飼料流通により畜産生産基盤を維持・強化し、国民への畜産物の安定供給を図ります。**

## <事業目標> [平成30年度→令和12年度まで]

○生乳生産量：728万トン→780万トン ○牛肉生産量：33 (48) 万トン→40 (57) 万トン ○豚肉生産量：90 (128) 万トン→92 (131) 万トン  
○鶏肉生産量：160万トン→170万トン ○鶏卵生産量：263万トン→264万トン ※ () は枝肉換算

## <事業の内容>

### 1. 飼料輸送安定化推進事業

飼料メーカー、飼料販売業者、運送業者、畜産農家、都道府県等を参集し、**飼料輸送に関する課題の理解醸成や課題解決に向けた検討**を行う取組を支援します。

### 2. 飼料輸送効率化等支援事業

**飼料輸送の効率化・標準化に資する実証**等の取組を支援します。

- (例) ① 飼料タンク内の在庫を把握し、情報共有するためのIoTの導入等の取組  
② 農場内での高所作業の負担を軽減する等労働環境改善に向けた取組  
③ 鉄道等を用いた共同輸送及び飼料タンクの改良に関する取組 等

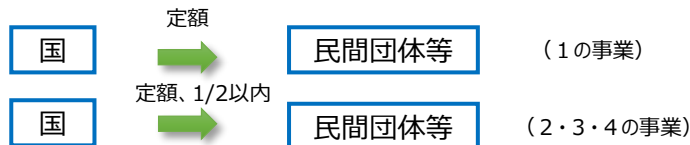
### 3. 粗飼料広域流通体制確立事業

**新たな国産粗飼料の広域流通体制を構築する実証**の取組を支援します。

### 4. 粗飼料流通体制定着化事業

**国産粗飼料の長期的な供給のため、流通の定着化に資する取組**を支援します。

## <事業の流れ>



## <事業イメージ>

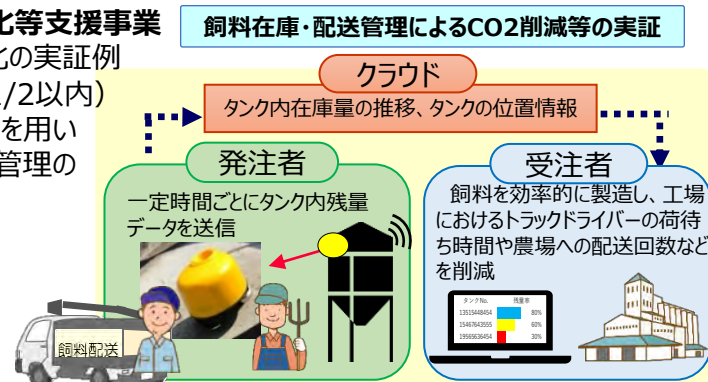
### 1 飼料輸送安定化推進事業

飼料輸送の合理化に向けて検討する取組を支援します。(補助率：定額)



### 2 飼料輸送効率化等支援事業

飼料流通の効率化の実証例 (補助率：定額、1/2以内)  
○超音波センサー等を用いた飼料在庫・配送管理の実証



### 3 粗飼料広域流通体制確立事業

県域を越えた効率的な国産粗飼料の流通実証に必要な保管施設の設置や機械のリース、飼料品質の調査分析等に係る経費等を支援。(補助率：定額、1/2以内)



### 4 粗飼料流通体制定着化事業

国産粗飼料流通の定着化、製品の品質向上と安定、検討会の開催等を支援。(補助率：定額、1/2以内)

**農畜産物放射性物質影響緩和対策事業 (畜産関係)** 【令和5年度予算概算要求額 96 (90) 百万円の内数】

<対策のポイント>

岩手県、宮城県及び栃木県における原発事故からの農業生産の復興に向け、安全な農畜産物を生産できる環境の確保等を図るための取組を支援します。

<事業目標>

安全な農畜産物の生産のため、放射性物質の影響を抑え持続的に営農活動を行うこと。

<事業の内容>

<事業イメージ>

**1. 放射性物質の吸収抑制対策**

農地に蓄積した放射性物質の農畜産物への移行低減を目的とした、**加里質肥料の施用、低吸収品目・品種等への転換に必要な取組、農地の反転・深耕等**の取組を支援します。

**2. 放射性物質汚染牧草等の処理**

保管されている放射性物質に汚染された牧草、稲わら等の処理を推進するため、**処理に向けた検討会等の開催、放射性セシウム濃度の再測定、適正保管の維持**の取組を支援します。

【放射性物質の吸収抑制対策】

農地に蓄積した放射性物質の農畜産物への移行の低減を目的として行う農畜産物の吸収抑制対策

- ①加里質肥料の施用
- ②放射性セシウム低吸収品目・品種等への転換に必要な取組
- ③表層に分布する放射性物質を含む土壌を下層の放射性物質を含まない土壌と反転・深耕することにより農畜産物への放射性物質の移行の低減を図る取組
- ④上記の①～③の取組の事前に行う土壌診断や取組後の効果検証を行うための土壌・農畜産物の分析及び吸収抑制対策を実施しない比較ほ場の設置による取組の効果検証

【放射性物質汚染牧草等の処理】

指定廃棄物以外の保管されている放射性物質に汚染された牧草、稲わら等の処理を推進

- ①保管汚染牧草等の処理に向けた検討会等の開催
- ②保管汚染牧草等の放射性セシウム濃度の再測定
- ③保管汚染牧草等の適正保管の維持

<事業の流れ>



【お問い合わせ先】 (1の事業) 畜産局飼料課 (03-6744-2399)  
 (2の事業のうち牧草・稲わら) 畜産局飼料課 (03-6744-2399)  
 (2の事業のうち牛ふん堆肥) 畜産局畜産振興課 (03-6744-7189)

# 畜産環境総合整備事業<公共>

【令和5年度予算概算要求額 91,334 (78,398) 百万円の内数】

### <対策のポイント>

家畜排せつ物処理施設の機能強化等を支援し、増頭のボトルネックとなる畜産環境問題の解決を推進することで、畜産の生産拡大を後押しします。

### <事業目標>

○ 担い手が利用する面積が全農地面積の8割となるよう農地集積を推進[令和5年度まで]

[平成30年度→令和12年度まで]

- 生乳生産量：728万トン→780万トン
- 牛肉生産量：33万トン→40万トン
- 豚肉生産量：90万トン→92万トン
- 鶏肉生産量：160万トン→170万トン
- 鶏卵生産量：263万トン→264万トン
- 飼料自給率：25%→34%

### <事業の内容>

### <事業イメージ>

#### 1. 農山漁村地域整備交付金（畜産環境総合整備事業）

畜産経営に起因する環境汚染の防止と畜産経営の合理化を促進するため、家畜排せつ物処理施設の機能強化等を支援します。

#### 【主な事業内容】

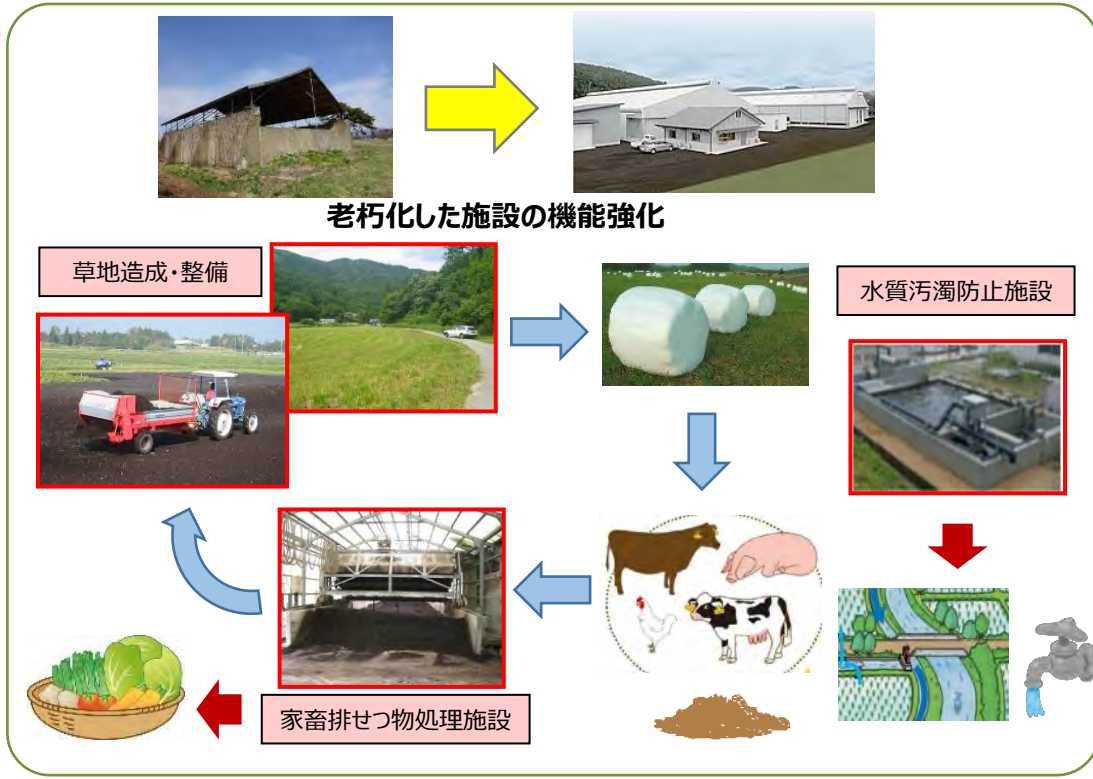
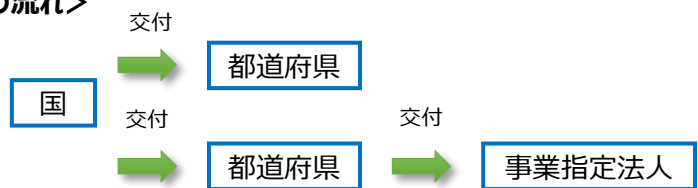
草地、家畜排せつ物処理施設、水質汚濁防止施設等の計画・整備

※対象とする施設は事業参加農家が共同利用するもの（市町村・農協所有を含む）

#### 【主な実施要件】

- ①事業参加者数：3人以上
- ②受益面積：10ha以上
- ③家畜飼養頭羽数（肥育豚換算）：1,000頭以上

#### <事業の流れ>



# 農畜産業プラスチック対策強化事業

【令和5年度予算概算要求額 20（16）百万円】

## <対策のポイント>

令和元年5月に閣僚会議で決定された「海洋プラスチックごみ対策アクションプラン」等に基づき、農林水産省としても「新たな汚染を生み出さない世界」の実現を目指し、所管する各業界におけるプラスチックごみ対策を強力に推進します。

## <政策目標>

2050年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロにまで削減

## <事業の内容>

### 1. 農畜産業における廃プラスチック対策の推進

10 百万円

- プラスチック資源の循環利用に向けた普及啓発、民間団体（都道府県協議会等）によるリサイクル事業者等とのマッチング、先進的事例調査の取組を行います。

### 2. プラスチックを使用した被覆肥料に関する調査

11 百万円

- プラスチックを使用した被覆肥料の被膜殻のほ場からの流出実態、被膜殻の流出防止技術、代替技術について調査等を行います。

## <事業の流れ>

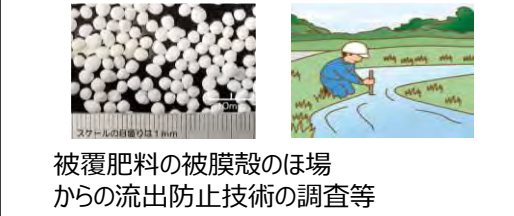


## <事業イメージ>

### 1. 農畜産業における廃プラスチック対策の推進



### 2. プラスチックを使用した被覆肥料に関する調査



### 【プラスチック資源循環の推進】

- プラスチック資源循環の促進に向け、先進的事例の収集、普及啓発活動を実施
- プラスチックの再資源化に取り組む事業者、農畜産業から排出されるプラスチックを収集する事業者、農畜産業者等とのマッチングの場を作ることで、処分費用の抑制や新たな用途での再利用等を実現

### 【流出防止】

- 被覆肥料に由来するマイクロプラスチックの海洋への流出を抑制

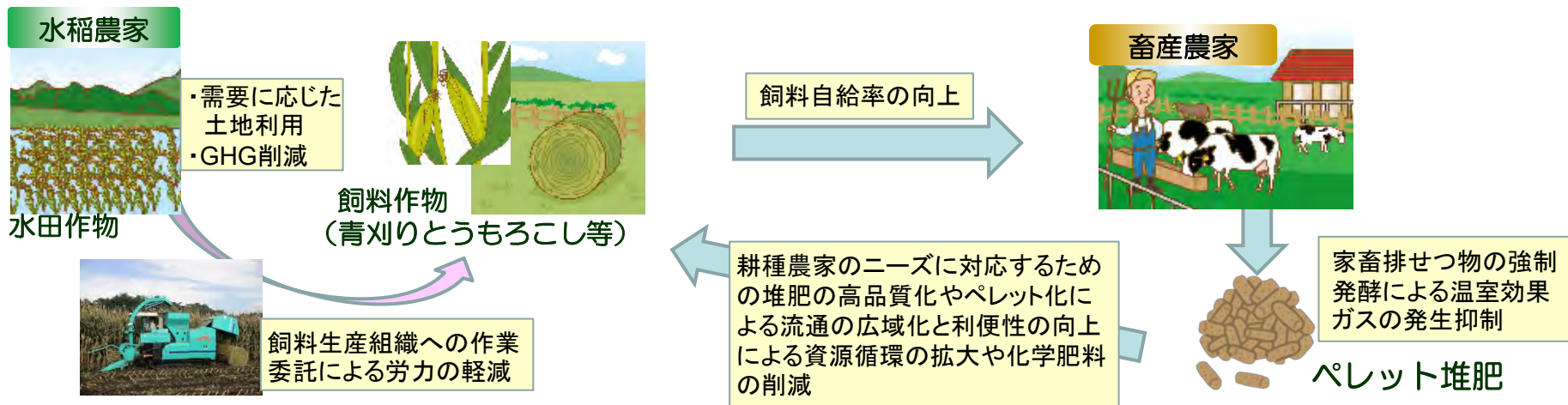
【お問い合わせ先】 (1の事業) 農産局園芸作物課 (03-3593-6496)  
 畜産局飼料課 (03-6744-7193)  
 (2の事業) 農産局技術普及課 (03-6744-2435)



# 水田を活用した飼料作物の作付拡大等の飼料増産対策

(令和5年度当初予算要求)

国内外で国産畜産物の需要拡大が見込まれる一方、我が国の畜産生産の現場において、①配合飼料価格等の高騰、②自給飼料生産のための優良農地の不足、③飼料生産に係る労働力不足、④家畜排せつ物の処理に伴う温室効果ガスの発生抑制、⑤堆肥の適切な利用が課題となっている。



## 対策: 81.7億円の内数(前年比+7.5億円)

- <畜産生産力・生産体制強化対策事業のうち国産飼料の生産・利用拡大> (9.5億円の内数)
- ◆ 飼料生産組織の運営強化、機械導入、排水条件の改善支援
  - ◆ 子実用とうもろこし等の利用に向けた実証、技術指導
  - ◆ 未利用水田や荒廃農地等を活用した放牧の推進

### <環境負荷軽減型持続的生産支援事業> (71.3億円の内数)

- ◆ 耕種農家と連携して水田における自給飼料の生産を拡大する取組を支援

### <畜産高品質堆肥生産流通促進支援事業> (0.9億円)

- ◆ 環境負荷軽減に資するペレット堆肥等の生産・流通促進のための理解醸成や生産技術の普及等に向けた取組を支援

- 環境負荷軽減の社会的要請に応えつつ、需要に応じた土地活用や畜産農家の規模拡大を実現
- 「みどりの食料システム戦略」に掲げられている取組分野のうち、温室効果ガス削減、飼料の国産化、化学肥料の削減、有機農業、資源循環、労働生産性の向上に貢献し、持続的な畜産物生産を実現